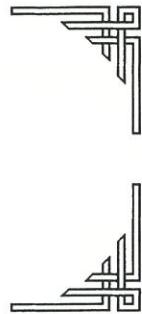


2014～2015年度  
茅ヶ崎中央ロータリークラブ

# 会長方針

第31代会長 倉澤条太



2014～2015年度 ゲイリー C.K. ホアン RI会長 テーマ  
「LIGHT UP ROTARY」 「ロータリーに輝きを」

## 《会長方針》

### 「親睦と奉仕」

クラブ例会に出席することにより親睦を図ることは勿論ですが、各委員会活動により、会員同士より信頼関係を深め、そして委員会活動を通して積極的に地域社会の各方面に発信してまいります。

今年度、新会員には多くの委員会に所属して頂いています。例会だけで人間関係を築くのは大変時間がかかります。各委員会で炉辺会合を企画して、ベテラン会員・中堅会員・新会員が、一年間「同じ釜の飯を食う」気持ちで親睦を深めることをお願いいたします。

また外部から多くの卓話者をお招きし、ご家族も気軽に参加できる例会も企画しています。

奉仕活動は短期・長期のプロジェクトを進めます。

長期プロジェクトとしては「パキスタンポリオ撲滅のための家族健康教育プログラム特別委員会」を設置し、他クラブ、他団体にも協力を仰ぎ、積極的に国内外に発信してまいります。

### 今年度の主な行事

- ・8月から台湾女子学生を青少年交換留学生として1年間受け入れ。
- ・9月、茅ヶ崎3クラブ合同のがバナー公式訪問。
- ・11月、20周年を迎える松江しんじ湖ロータリークラブとの友好クラブ締結継続式。
- ・来年3月、IMのホストクラブ。
- ・5月、台北北門ロータリークラブの28周年記念例会。

「親睦と奉仕」ロータリーの原点をしっかりと見つめ、会長の個性を積極的に出す1年にしてまいりたいと思います。

会員及びご家族のご協力を心からお願い申し上げます。

## 幹 事

木 村 康 治

本年度会長方針である、「親睦と奉仕」をクラブ内で、実践、深耕するためのパイプ役として、また、より魅力のある、クラブにするため尽力したいと考えています。

## 会場監督

委員長 峯 山 文 明

1. 3人の新会員の指導と会場監督全員で例会運営の計画をして行きます。
2. 例会は開始、終了時間を厳守し、延長が予想される場合司会者が予告する。
3. 例会報告時やゲストスピーカーが卓話の時、私語は慎むよう要請します。
4. いつもと同じ席ではなく委員会別やアルファベット括りを混在させたブロックを作り、テーブルに着いてもらう。
5. 年間の定例行事計画のプログラム委員会と移動例会である浜降祭、花火大会、年次総会、クリスマス例会、最終例会等は親睦委員会と協議し実施計画する。
6. 6月から9月まではクールビズのカジュアル例会とする。
7. 煩雑な移動例会実施で、出席率の下落にならないよう関係委員会と協力する。
8. ラスカロイヤルルーム予約は3か月前の1日に忘れずに申し込む。
9. ラスカ壳場増床工事に伴い移動例会が増加するので、炉辺会合で振替するか近隣の会場を確保してスムーズな例会の開催をする。
10. 2015年1月より10月まで現例会場は工事のため閉鎖となります。下半期の例会場は市の施設や40人程度収容可能な店舗、集会施設等の移動例会になります。上半期に会場候補の選定を2~3ヶ所リストアップする。

委 員 當 間 安 弘 嶋 峰 貴 央 大 川 晃 一  
松 井 昭 彦 小 山 博 樹

## 会 計

湯 山 文 夫

本年度も今までの会計担当者と同様に、当クラブの正しい運営の助けとなるような明朗でわかりやすい会計を目指します。

## 職業奉仕委員会

委員長 山 口 洋一郎  
委 員 田 中 重 光

倉澤会長方針で、ロータリークラブの哲学・精神を会員の皆様に伝えてほしいとのことですので、卓話の時間にスピーカーをお招きしたり、炉辺会合も1回持たせていただき、ロータリー活動の根幹となる職業奉仕活動を掘り下げ、勉強していきたいと考えています。

教材として、大連クラブの「ロータリーの倫理」、深川純一氏の「職業奉仕とは」等を参考にしていきたいと考えています。

## クラブ奉仕委員会

委員長 藤原琢也

副委員長 松岡慶純

倉澤会長のスローガン（一年間同じ釜の飯を食う感覚）を7人のリーダーの皆様と共に、全員参加（ベテランから新会員まで）の委員会活動を遂行して参ります。

クラブ奉仕委員会の役割を明確化し、クラブ内が活性化出来る様に、CLPの在り方をクラブ戦略委員会と共に検証して参ります。

### 1. プログラムリーダー

神尾元洋

年間プログラムに関しては、外部卓話者を中心に地域を多角的に捉えつつ、内部卓話や炉辺会合において会員間の相互理解が深まるよう企画してまいりたいと思います。

### 2. 週報リーダー

山口健

- ・週報担当委員（他の担当と重複します）

山崎、湯山、岡崎、本間、嵯峨野、大川、松井、小山、山口（リーダー）

- ・週報は、担当会員の負担を減らし、出来るだけ必要最小限にする

（ウエイ研究舎の篠原氏と事務局の全面的協力を得て）

#### \* 週報内容

- ・週報 Specialと週報 Normalを作成

週報 Special→行事計画より選定した特別例会（例 ガバナー公式訪問、総会等）

週報 Normal→上記以外の例会

- ・週報作成マニュアル作成

7月中に作成（担当 山口）

週報担当者→週報資料の作成+写真撮影（月毎に交代）

事務局 →資料と写真を転記し、週報を作成

会員へメール、FAX等で配布、篠原さんへメール（紙にしてBOXには入れない）

篠原（ウエイ研究舎）→週報をホームページに掲載。HPに半年以上の週報を保持

- ・カメラ購入

- ・週報配布=>メール、FAXのみ

### 3. 親睦リーダー

松岡慶純

倉澤会長の「今年はなんと言っても親睦！」という心意気を実践すべく、ベテランから若手まで揃っている委員会メンバーの英知を結集して会員奥様にも愉しんでもらえる企画運営をして参ります。

- ・浜降祭 7月21日（移動例会）
- ・花火大会 8月2日（移動例会）
- ・年次総会 12月5日（箱根で宿泊の予定）
- ・クリスマス例会 12月19日（会員奥様に企画頂く予定）
- ・創立記念例会 2月20日
- ・会長・幹事慰労会 6月26日

#### 4. 姉妹・友好リーダー

大村 浪雄

昨年度は、創立30周年の各事業で台北北門R C、松江しんじ湖R Cのメンバーの皆様には多数の参加を頂きました。今年度は当クラブの多くのメンバーの皆様にお礼を兼ねて台北、松江に訪問していただきたく努力していきたいと思います。また次年度以降に向けてのことになりますが、交流の一環として浜降祭の移動例会に各クラブの方をお招きしてはと思っており、その足掛かりができればと考えています。

委員 山崎正三 湯山文夫 岡崎将剛 本間多佳泰  
嵯峨野貴央 大川晃一 松井昭彦 小山博樹

#### 5. スマイルリーダー

石田忠勝

スマイル・ボックス（ニコニコ箱）とは、例会場で会員が自由意思で善意の寄付金を入れる箱。

1936年大阪R Cで初めて実施されたロータリー特有のもので、会員、家族、事業場等の慶び事、お祝い事をニコニコしながら披露し、喜びを分かち合い、又失敗したり、迷惑をかけたときもユーモアたっぷりに苦笑し、例会を賑わせて親睦を増進し、集まったお金は主として奉仕活動資金に使われる。ニコニコ箱とも呼ばれる。

以上の趣旨から、特にクラブから御祝を戴く、お誕生日・結婚記念祝・奥様お誕生日には奮発して奉仕活動の原資であるスマイルをお願い致します。

#### 6. 出席リーダー

相馬秀幸

年2回、100%例会を実施する。その他の例会も出席率の向上を目指し、メイキャップ促進を図る。

#### 7. ソングリーダー

山宮契谷

当クラブのベテラン会員であっても歌を指揮するという経験はない人もいますし、新会員においてやもつと多いと思います。例会始めの歌唱は、一点に注目を集め集中力を高める役割があり、その後の例会がスタートします。未経験の会員にも新しい世界の経験をして頂きたいと思います。共通委員一人一ヶ月単位でローテーションを組みました。

委員 鈴木和男 山崎正三 内田謙郎 大川晃一  
松井昭彦 小山博樹

#### 会員増強委員会

委員長 佐々木保博  
副委員長 當間安弘

今年度の委員会は、会員増強、広報、クラブ会員情報、会員選考 分類の4部門で1年間活動していきます。

委員会の目標は倉澤会長の「クラブメンバー60名体制を目指」に少しでも近づけるように前年度からの良い流れを踏襲し、これまで以上に活力のあるクラブ、楽しいクラブ、充実したクラブを作れるように新しい会員獲得の為に、委員会メンバーの英知を駆使すると共に、クラブ全体で考え、知恵を出し合い協力できる体制が創れるように活動していきます。

広報活動と増強は表裏一体であり、ロータリーに対する公共イメージと認知度の向上の為地域イベントへの参加、色々な広告媒体を通じてロータリーの魅力のピーアール等も大切と考え、会員増強への好環境づくりを1年間やりたいと考えています。

#### 1. 会員増強リーダー

小川一雄

- ・会長の意向である会員増強10名に少しでも近づく努力をしていきたい。中でも女性会員の新会員増強を第一重点項目とする。
- ・新会員推薦候補者のリストアップ
- ・以前のリストアップ者の再度のアタック

#### 2. 広報リーダー

三澤護

今年度の「地区研修・協議会」で示された「公共イメージの認知度の向上」をめざし、パキスタン視察により知りえた情報をもとに、ポリオについて市民にどのように伝えていくか考え実行する。

#### 3. クラブ会員情報リーダー

堀川正夫

昨年度製の会員情報誌を利用し会員相互の職業奉仕を考えてゆきたいと思います。

例会時に2分でも3分でも頂き、会員の「私の仕事」のPRをして頂き、会員個人のサービス（ロータリーでは奉仕という言葉になっている）を広げて地域社会に伝えていきたいと思います。

自分達が出来る、クラブが一つになって出来る奉仕活動を会員情報を分析し委員会で議論し実践に結び付けたいと考えます。楽しくできる奉仕活動を合言葉にメンバー全員が参加出来る方法を考える委員会にしたいと思います。皆様のお知恵を貸して下さい。

#### 4. 会員増強・分類リーダー

岡崎将剛

会員選考については、職業モラルを持っていることを基本として、予定者本人と面談し、ロータリーの基本的知識、ルールを説明し理解していただいたうえ、適任者であるかどうか、奉仕活動等に理解があるかどうかを理事会に報告する。また多くの業種にロータリアンを送るべく職業分類表の業種、業態も調査、研究をする。

委員 山田悦子 大川晃一 松井昭彦 小山博樹  
高橋功 堀口昌信

### 奉仕プロジェクト委員会

委員長 倉知克則  
副委員長 長田洋二

会長方針に則り、前年からの流れを大切に委員会一丸となり次年度につながる活動を楽しく実施していきます。

#### 1. 社会奉仕リーダー

高山正男

大槌ホタテ組合への支援事業の検証および今後の継続支援の有様を検討します。

## 2. 国際奉仕・新世代奉仕リーダー

野 崎 幸 夫

今年度は国際事業化を計らず過去の事業・継続事業を見守りながら、次々年度地区等補助金獲得の準備年とします。年度中、突発的な事業が発生した場合は特別委員会をもって対処するフレキシブルな体制にします。

委 員 熊 沢 信 行 前 川 義 憲 山 本 泰 然 丸 山 孝 明  
本 間 多 佳 泰 相 馬 秀 幸

## ロータリー情報委員会

委 員 長 赤 間 浩 正  
副 委 員 長 森 下 行 由

ロータリー情報委員会として、今年度はロータリーの地区の情報等の受信、発信を池亀研修リーダーを中心に行修、活動をしてゆきたいと思います。

ロータリー財団、米山奨学委員会については会員皆様の理解とご協力を願い申し上げます。

## 1. ロータリー財団リーダー

沼 上 憲 雄

われわれロータリアンが承認した今年度ガバナー、地区委員はロータリー財団の補助金の活用奨励と財団寄付の目標を決め求めてきました。その寄付目標は下記の通りです。

- ①財団寄付 クラブ員1人 200ドル
- ②ボリオ寄付 クラブ員1人 40ドル
- ③ベネファクター 1クラブ1人

(1: 恒久基金なら米貨1000ドル以上の現金寄付)

会員皆様の御理解とご協力を願い致します。

委 員 水 口 學 一 城 田 安 正

## 2. 米山奨学リーダー

成 田 耕 一

“ロータリーを知らせる”ために米山記念奨学会、地区青少年交換プログラムは非常に有効で大切な活動です。若い人材育成は今や世界規模で米山学友会が誕生し、世界各地で活躍しています。

米山記念奨学会事業は今後益々活発化すると思われます。そのための活動資金となる米山財団にも一層力を入れて行ければと思います。

ロータリー米山記念奨学会、米山記念奨学事業は国際ロータリーならではの高い次元での次世代へ受け継ぐべき活動であるため、今年度は当クラブでも会員各位にその重要性を訴え、米山記念奨学事業や米山財団にさらに理解を深めてもらい、活発に活動して行きたい。

## 3. 研修リーダー

池 亀 武 士

最近のロータリークラブを正しく理解する為に地区研修委員会の行事に参加すると共にクラブ会員の知識の習得に役立つ様にして行きたい。

## クラブ戦略委員会

委員長 池亀武士

クラブ創立30周年も終わり、新たな年代の基礎づくりを目指さなければならない年に成りました。事業については新組織のもとでパキスタンポリオ撲滅の援助にむけて三年間の事業がスタートします。会員皆で長期的視野に立って進められるよう検討し提案して行きたい。又、会長の要望に沿って委員会で十分話し合い、クラブ協議会を開催し提案して行きたい。

- 提案項目 1、名称の問題…戦略について
- 2、顧問制度の検討…外部有識者の導入
- 3、旅費補助制度の検討…クラブ協議会の開催
- 4、クラブ奉仕委員長より提案が有ったCLPの見直し
- 5、今後の長期計画について…大槌支援・パキスタン支援
- 6、新会員のオリエンテーション
- 7、その他、会長の要望に沿った試案の検討

委員 出山和夫 田中重光 倉澤条太 木村康治  
加藤順一 神尾元洋 山口洋一郎 當間安弘  
倉知克則 大村浪雄

## EPP委員会（パキスタンポリオ撲滅委員会）

委員長 小川一雄

「体験しなければ真実は理解出来ない」を合言葉に昨年度パキスタンに赴きポリオ撲滅運動の現状を観察した。駐日本大使館（イスラムバード）駐日本領事館（カラチ）パキスタン政府（パキスタン保健省）ユネセフ N R S P A S P パキスタン国際ロータリーポリオ委員会を訪問し現状とポリオの情報を収集した。

そして至った考えが「パキスタンの家庭健康教育プログラム」という健康教育を通じて将来母となる女性が「命を守る知識—その中にポリオ等の予防接種も含め—」を習得し家庭内およびコミュニティーにその知識を普及させることを目的とし有能なレディー・ヘルス・ワーカーを育成するものである。

準備期間を2014年5月から10月とし、研修期間を2014年11月から2017年10月までの3年間を予定している。実施は茅ヶ崎中央ロータリークラブとNGOのN R S PとAMDAの協力により運営する。N R S Pはパキスタン全土で職員数7000名、会員数250万人、活動地域は15万ヶ所、資産100億円を有し、145ある部族間そしてスンニ派とシーア派の宗教闘争の中にあっても活動範囲を広げている。

今年度は下記の組織の基に運営し会員の理解と協力を深め、来る2015年秋の国連大学（港区青山）で開催される国際会議に「家庭健康教育プログラム」の政策提案と「世界家庭健康教育基金」の創設に向けての準備更に国際ロータリーへの説明と理解そして協力を求める。

### 国内の協力機関

外務省 厚生労働省 国連人口基金 パキスタン大使 国會議員  
国際ロータリー日本事務局 国際医療センター AMDA